

〈Study Note〉 Relationship between Family Conversation and Personal Financial Literacy in Elementary School Students

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三沢, 徳枝, MISAWA, Tokue メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1310

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



小学校高学年児童の家の人との会話と 金融知識との関連

三 沢 徳 枝

I はじめに

2020年度から小学校5・6年で学習する家庭科では、「C 消費生活・環境」の(1)物や金銭の使い方と買物において、買い物の仕組みや消費者の役割として、売買契約の基礎を学ぶことになった。これまで、小学校家庭科の中で消費者リテラシーの育成を目指した研究(吉津2020)や中学校家庭科で金銭の管理に関する授業実践(加賀2018)が見られる。これらの知見からは、子どもが家計を意識して、計画的に金銭の管理を行う、学びの機会が与えられていない実態が明らかである。金融広報中央委員会の金融リテラシー調査(2016)においても、学校や家庭で金融教育を受ける機会や教わる機会のない人が多いことが分かっている。一方で、高い金融リテラシー層と家庭での金融教育との関連が明らかである(末廣・武田他,2018)。金融リテラシーは、子どもが直接親から教わるか、親の貯蓄・投資習慣を観察する際に向上する(Shim et al, 2009)。既存の知見では、子どもの金融リテラシーは、親の教育や習慣に影響を受ける要因の一つであることが明らかである。

金融リテラシーとは、お金の知識・判断力であり、家計管理、生活設計、金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択、外部の知見の適切な活用ができる等、最低限身につけるべき生活スキル⁽¹⁾である。金融知識を理解し、生活スキルとして蓄積し、予想されるライフイベントや予想外のリスクにも留意しながら、適切で短期的な意思決定と長期的な計画を通して、身につけた知識とスキルを効果的に活用したり使用する能力である。

本研究で対象とする小学生の児童は、家庭生活の主体ではないが、金銭と無関係に生活してはいない。子どもにとっての金融リテラシーとは、お金の管理や経済の働きの理解を踏まえた、意思決定や社会参加とも言える。

これまで、小学校家庭科では金融リテラシーに関する様々な研究があるが、多くは教科の内容の工夫や教材開発に関するものである。本研究では、金融リテラシーに影響する要因の一つである、家庭での金融教育として、子どもと親との会話に着目し分析をする。家庭科を学習する小学

校5・6年の児童が、家の人との会話とお金に関する知識との関連を明らかにする。

Ⅱ 方 法

1. 分析対象

金融広報中央委員会の「子どもの暮らしとお金に関する調査」の第1回（2005年度）、第2回（2010年度）、第3回（2015年度）調査の個票データを用いた。

金融広報中央委員会に「子どもの暮らしとお金に関する調査」データの貸し出しを申請し、2019年5月に承認を得た。調査年月日と学校数（小学校）、児童数（小学校高学年）は、表1の通りである。

2. 分析方法

「子どもの暮らしとお金に関する調査」から、小学校高学年を対象とするデータのみ取り出し、第1回～第3回までの個票の問い「家の人との会話」と「金融経済の知識」の項目について、統計的分析でクロス集計後にカイ二乗検定を行った。文中の「 」は質問項目を表している。

「家の人との会話」では、「家の人の仕事のこと」「自分がつきたい仕事」「将来の夢（しょうらいの夢）」「お金のこと」について、2005年度は「あり、なし」で、2010年度と2015年度は「よく話をする、ときどき話をする、話をしない」から回答されている。また、「金融経済の知識」では、「市場はものの売り買いを行い、値段が決まるところである」「銀行や郵便局などに貯金すると、利子をつけて返してくれる」「みんなが欲しがると、値段が高くなる」「お金はだれでもつくりすることができる」「日本のお金は、コイン（こう貨）やお札が、全部で10種類ある」「お札よりもコイン（こう貨）の方が、ものをたくさん買うことができる」「日本のお金と、外国のお金は、同じものである」「ものを買うときには、一緒に税金も払っている」「図書カードは、本屋ではお金と同じように使うことができる」「銀行は、お金を預けたり、お金を貸してくれたりするところである」「保険は事故などへの備えである」について、それぞれに「正しい」「まちがっている」「わからない」から選択されている。

表1 調査年月日と学校数、児童数

	第1回 2005年度	第2回 2010年度	第3回 2015年度
調査年月日	2005年12月～2006年3月	2010年12月～2011年3月	2015年12月～2016年3月
学校数（小学校）	163	123	111
児童数（高学年）	9,153	8,094	6,957

本研究では、金融経済の知識を問う問いで「わからない」という回答に着目して分析した。なお、無回答の項目は欠損値として分析から除外した。

Ⅲ 結 果

1. 家の人との会話と金融経済の知識との関連

家の人との会話と金融経済の知識の項目でカイ二乗検定を行い、有意な関連があり、かつ「わからない」とする回答が多かった項目について、以下に述べる。

家の人との会話で「家の人の仕事のこと」や「自分がつきたい仕事」「しょうらいの夢」「お金のこと」についてよく話をする児童は、金融経済の知識として「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」や「銀行やゆうびん局などに貯金をすると利子をつけて返してくれる」「みんながほしがるものはねだんが高くなる」の正答数が多く、「ときどき話す」や「話をしない」児童は「わからない」の回答が多かった。

(1) 「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」が「わからない」

金融経済の知識について、「わからない」回答に着目した。「家の人の仕事のこと」と「市場はものの（売り買いをおこない）ねだんが決まるところである」は有意に関連した（2005年度は $p < 0.05$ 、2010年度と2015年度は $p < 0.001$ ）。2005年度の「家の人の仕事のこと」2,722件中の会話を「なし」とした児童は、「市場はもののねだんが決まるところである」を「わからない」と1,507件（55.4%）が回答した。2010年度の「家の人の仕事のこと」について7,781件中「話をしない」児童は、市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」を「わからない」と986件（12.7%）が回答し、「ときどき話をする」児童は、「わからない」が2,229件（28.6%）となった。2015年度の「家の人の仕事のこと」について6,739件中「話をしない」児童は、「わからない」が928件（13.8%）、「ときどき話をする」児童は、「わからない」が2,062件（30.6%）だった。

また「自分がつきたい仕事」と「市場はものの（売り買いをおこない）ねだんが決まるところである」についても有意に関連した（2005年度は $p < 0.05$ 、2010年度と2015年度は $p < 0.001$ ）。2005年度の「自分がつきたい仕事」について2,722件中会話「なし」の児童は、「市場はもののねだんが決まるところである」を「わからない」と1,515件（55.7%）が回答し、2010年度の「自分がつきたい仕事」の7,765件中「話をしない」児童は、「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」を「わからない」が1,397件（18.0%）、「ときどき話をする」児童は、「わからない」が1,895件（24.4%）だった。2015年度の「自分がつきたい仕事」の6,754

件中「話をしない」児童は、「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」について「わからない」という回答が1,335件(19.8%),「ときどき話をする」児童は、「わからない」が1,743件(25.8%)となった。

2005年度の「しょうらいの夢」についての会話と金融経済知識の「市場はもののねだんが決まるところである」とは有意な関連があった($p < 0.05$)。「しょうらいの夢」の会話の2,722件中、会話「なし」とした児童は、「市場はもののねだんが決まるところである」を「わからない」とする回答が1,512件(55.5%)と多かった。

また「お金のこと」についての会話と「市場はものの(売り買いをおこない)ねだんが決まるところである」については有意に関連した(2005年度は $p < 0.05$, 2010年度は $p < 0.001$)。2005年度の「お金のこと」についての2,722件中、会話「なし」とした児童は、「市場はもののねだんが決まるところである」を「わからない」とする回答が1,509件(55.4%)で、2010年度の「お金のこと」について7,765件中「話をしない」児童は、「わからない」とする回答が1,303件(16.8%),「ときどき話をする」児童は、「わからない」が2,086件(26.9%)となった。

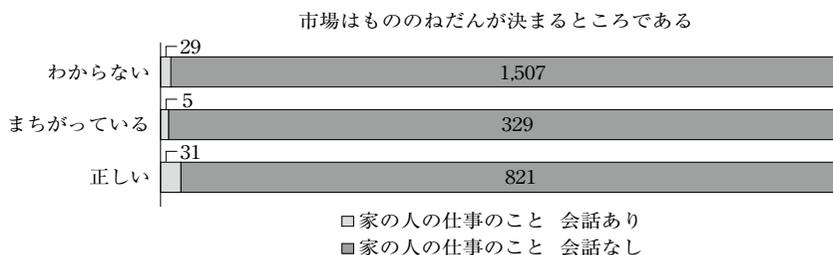


図1 第1回(2005年度)調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「家の人のしごとのこと」と「市場はもののねだんが決まるところである」

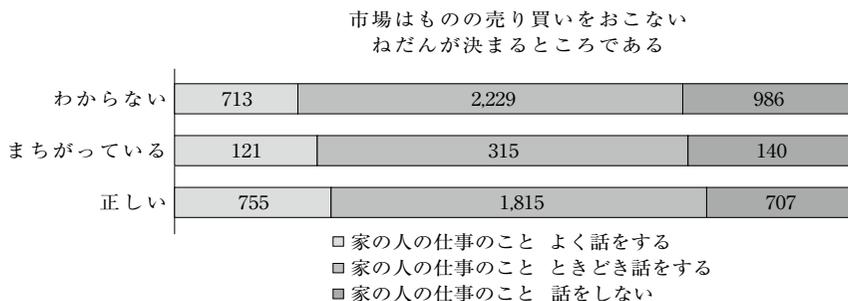


図2 第2回(2010年度)調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「家の人のしごとのこと」と「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」

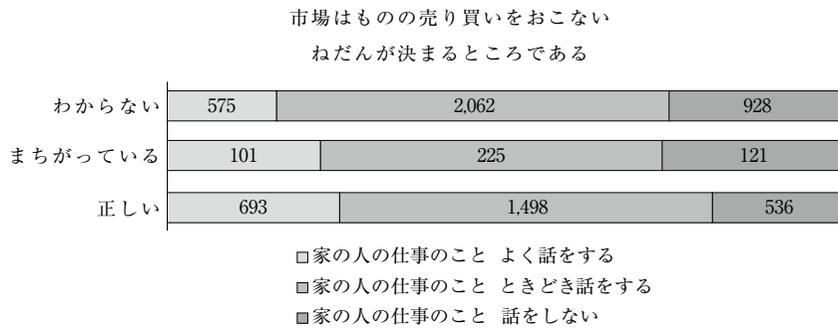


図3 第3回(2015年度)調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「家の人のしごとのこと」と「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」

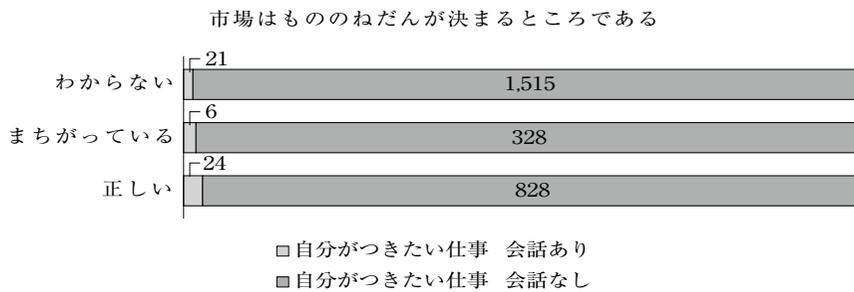


図4 第1回(2005年度)調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「自分がつきたい仕事」と「市場はもののねだんが決まるところである」



図5 第2回(2010年度)調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「自分がつきたい仕事」と「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」



図6 第3回（2015年度）調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「自分がつきたい仕事」と「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」



図7 第1回（2005年度）調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「しょうらいの夢」と「市場はもののねだんが決まるところである」

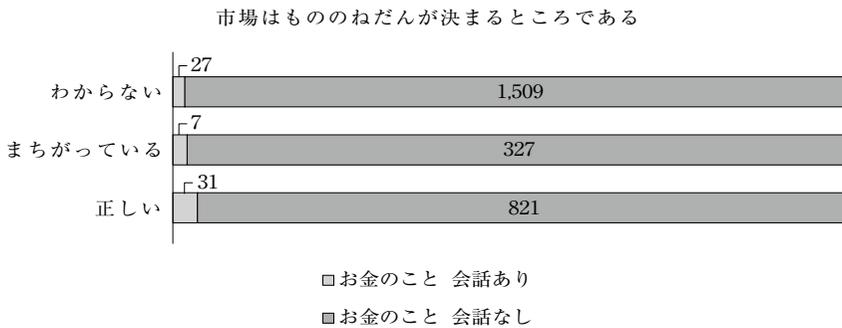


図8 第1回（2005年度）調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「お金のこと」と「市場はもののねだんが決まるところである」



図9 第2回(2010年度)調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「お金のこと」と「市場はものの売り買いをおこないねだんが決まるところである」

(2) 「銀行やゆうびん局などに貯金すると利子をつけて返してくれる」が「わからない」

家の人との会話で「自分がつきたい仕事」と金融経済知識の「銀行やゆうびん局などに貯金すると利子をつけて返してくれる」とは有意に関連した(2010年度 $p < 0.001$, 2015年度 $p < 0.001$)。「自分がつきたい仕事」の7,758件中「話をしない」児童は、2010年度が1,350件(17.4%), 2015年度は6,769件中1,390件(20.5%)が、「わからない」と回答した。「ときどき話をする」は、2010年度が1,846件(23.8%), 2015年度は1,766件(26.1%)が、「わからない」という回答をした。

また「お金のこと」と「銀行やゆうびん局などに貯金すると利子をつけて返してくれる」との関連は有意だった($p < 0.001$)。2010年度の調査で「お金のこと」7,759件中「話をしない」児童は、「銀行やゆうびん局などに貯金すると利子をつけて返してくれる」を「わからない」とする回答が1,321件(17.0%), 「ときどき話をする」児童は「わからない」が1,938件(25.0%)となった。



図10 第2回(2010年度)調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「自分がつきたい仕事」と「銀行やゆうびん局などに貯金すると利子をつけて返してくれる」

銀行やゆうびん局などに貯金すると
利子をつけて返してくれる

わからない	539	1,766	1,390
まちがっている	202	404	260
正しい	476	1,045	687

自分がつきたい仕事 よく話をする
 自分がつきたい仕事 ときどき話をする
 自分がつきたい仕事 話をしない

図 11 第 3 回 (2015 年度) 調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「自分がつきたい仕事」と「銀行やゆうびん局などに貯金すると利子をつけて返してくれる」

銀行やゆうびん局などに貯金すると
利子をつけて返してくれる

わからない	539	1,938	1,321
まちがっている	168	452	253
正しい	587	1,670	831

お金のこと よく話をする
 お金のこと ときどき話をする
 お金のこと 話をしない

図 12 第 2 回 (2010 年度) 調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
「お金のこと」と「銀行やゆうびん局などに貯金すると利子をつけて返してくれる」

(3) 「みんながほしがるものはねだんが高くなる」が「わからない」

2010 年度の調査から家の人との会話で「自分がつきたい仕事」と金融経済知識の「みんながほしがるものはねだんが高くなる」は有意に関連した ($p < 0.001$)。「自分がつきたい仕事」の 7,752 件中「話をしない」児童は、「みんながほしがるものはねだんが高くなる」ことを「わからない」とする回答が 965 件 (12.4%) だった。

また、「しょうらいの夢」と「みんながほしがるものはねだんが高くなる」についても有意に関連した ($p < 0.001$)。「しょうらいの夢」の 7,783 件中「話をしない」児童は、「みんながほしがるものはねだんが高くなる」ことを「わからない」とする回答が 829 件 (10.7%) である。

「お金のこと」と「みんながほしがるものはねだんが高くなる」との関連も有意である ($p < 0.001$)。「お金のこと」の 7,754 件中「話をしない」児童は、「みんながほしがるものはねだんが高くなる」を「わからない」と 907 件 (11.7%) が回答した。

みんながほしががるものはねだんが高くなる

わからない	384	1,184	965
まちがっている	426	1,136	735
正しい	634	1,369	919

自分がつきたい仕事 よく話をする
 自分がつきたい仕事 ときどき話をする
 自分がつきたい仕事 話をしない

図 13 第 2 回 (2010 年度) 調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
 「自分がつきたい仕事」と「みんながほしががるものはねだんが高くなる」

みんながほしががるものはねだんが高くなる

わからない	488	1,229	829
まちがっている	583	1,078	639
正しい	830	1,338	769

しょうらいのゆめ よく話をする
 しょうらいのゆめ ときどき話をする
 しょうらいのゆめ 話をしない

図 14 第 2 回 (2010 年度) 調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
 「しょうらいの夢」と「みんながほしががるものはねだんが高くなる」

みんながほしががるものはねだんが高くなる

わからない	332	1,292	907
まちがっている	372	1,235	690
正しい	585	1,536	805

お金のこと よく話をする
 お金のこと ときどき話をする
 お金のこと 話をしない

図 15 第 2 回 (2010 年度) 調査 家の人との会話と金融経済知識の関連
 「お金のこと」と「みんながほしががるものはねだんが高くなる」

IV 考察とまとめ

本研究では、金融広報中央委員会が行った金融リテラシー調査の「子どもの暮らしとお金に関する調査」第 1 回から第 3 回までのデータを用いて、金融リテラシーに影響する家庭での子どもと親との会話とお金に関する知識との関連を明らかにした。

結果として、家の人の仕事や自分がつきたい仕事、しょうらいの夢、お金のことについて、家庭での会話のない児童は、金融経済の知識として、市場の仕組みや需要と供給による物の値段の

決まり方、銀行や郵便局の役割、利子について、「わからない」とする回答が多かった。

児童の「わからない」の回答は、金融経済知識に関して、自分に関係する事柄として意識されていないと捉えられる。単に知識としてだけでなく、金銭の機能や役割を理解した上で、正しく適切にお金を使うことが出来るかが問われる。最近では、インターネット上でアプリやゲームなどを手にする機会も増え、保護者も子どもの消費行動を把握することが明確にできなくなっている。児童は、家庭で親の経験を聞くことを通して、お金の将来を計画したり、金融生活をコントロールする、自主的、合理的に判断決定するために必要なプロセスの知識が得られていないことが表れているのではないだろうか。

金融リテラシーは、様々な意思決定の場面において、教育や人生経験を通して蓄積した知識とスキルを効果的に応用したり使用する能力である。金融リテラシーを高めるには、家庭や学校で金融教育を受けただけでなく、複合的な教育を受けることも重要である（末廣・武田 2018）。従って、学校において家庭科では、児童が単に金融経済の知識や情報を得るだけではない。身につけた知識とスキルを活用して、何が必要でどう行動するのかを選択し判断できるように、意思決定力を育て、社会参加を促すことを目標に、家庭での金融教育を想定しながら、「家の人の仕事のこと」や「自分がつきたい仕事」「しょうらいの夢」「お金のこと」について話し合うなど、それと兼ね合わせた授業展開が考えられる。

《注》

- (1) 金融経済教育研究会の報告書が2013年4月に公表され、生活スキルとして最低限身につけるべき金融リテラシーを向上させ、持続可能な社会の実現に貢献する金融教育の意義が示された。また、家庭科における家計管理や生活設計の指導の充実と、就学前からの準備教育への期待を表している。

引用・参考文献

- 金融庁金融研究センター（2013）金融経済教育研究会報告書 1-3, 16-21.
 加賀恵子（2018）領域・人・実生活における実践とのつながりを重視した金銭教育の試み 日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集 61（0）, 19.
 三沢徳枝（2018）生活困窮世帯の子どもへの学習支援——金銭資源に着目して—— 児童学研究第 42 号 33-38.
 末廣徹・武田浩一・神津多可思・竹村敏彦（2018）金融教育の経験と教育水準が金融リテラシーに与える影響, 法政大学比較経済研究所, 1-10.
 Shim, Soyeon, Jing Jian Xiao, Bonnie L. Barber, and Angela C. Lyons (2009) "Pathways to Life Success: A Conceptual Model of Financial Well-Being for Young Adults." *Journal of Applied Developmental Psychology* 30 (6): 708-23.

本稿の分析に当たり、金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局内）から『子どものくらしとお金に関する調査』の個票データの提供を受けました。

（提出日 2020年9月25日）